

# 南アルプス市立大明小学校 自己評価書

平成24年7月 実施

## 1 教職員による自己評価

本校では、1学期末と2学期末に、「大明教育 実践の評価」というアンケート形式による教職員の自己評価を実施している。

教育目標について・・・3項目      経営・組織・・・4項目  
教育課程（全般 各教科・総合的な学習 道徳 特別活動 学校行事）・・・10項目  
生徒指導・・・3項目      地域社会との連携・・・4項目      その他・・・4項目

### ◎1学期末の評価のねらい

- ◇前年度の実践の評価および1学期の実践の評価を踏まえ、今年度の課題を明らかにする。
- ◇学校・家庭・地域の連携・協働のあり方を探る。

### ◎評価方法

- ◇A：よい B：ふつう C：改善が必要 の3段階で評価
- ◇評価が低かった項目（BとCが半数より多い場合）ものについて、改善策や今後の取り組みの方向性を探る。

### ◎考 察

(1) 「教育目標について」の評価項目で、昨年度に比べて「学校教育目標や経営方針が児童や父母に理解されるように配慮されているか」という質問項目では「A」評価が4ポイント増えた。また、昨年度の学校評価で出された保護者からの「学級通信等でもっと学校の様子が知りたい」という要望に対しては、学年・学級通信などを工夫し、児童の活動の様子などを知らせて保護者とのコミュニケーションを図るようにしてきた。また、学校便りの地域回覧をお願いした。

(2) 「経営・組織」について、概ねAの（よい）という評価であったが、「学校運営に関する連絡・調整はスムーズか」の項目については、Bが8ポイントと高い割合を示した。教職員が見通しを持って活動できることはとても大切なことなので、検討が必要である。また、本年度は、南アルプス市の「学びの質を高める授業づくり」の研究指定を受けているが、研究主題については本校の実態に即したテーマであると感じている職員がほとんどであるという結果であった。

具体的記述の中には、

- ☆ 研究指定を受ける・受けないに関わらず研究実践を深めていくことはとても大切。
  - ☆ 研究主題は今の子どもたちの実態に合っているが、ただ日常の取り組みの中に意識して取り組んでいかないと、研究のための研究になってしまうと感じている。
- という意見、また、職員会議の時間が長すぎるので、提案を工夫する必要があるといった意見もでている。

### 【改善策1】

- ① 本校では、朝礼をしないで朝から教室で担任が児童を迎えるようにしている。一日の予定は週3回行う終礼と、毎日の予定が詳細に書かれた黒板を活用して、周知を図っている。それぞれに長所も短所もあるが、今後とも終礼をうまく活用して連絡ミスがないようにしていく。

(3) 「教育課程」について、「創意・工夫のある授業実践を通して、自ら学ぶ意欲と態度を育てることができたか。」では、「A」評価と「B」評価がほぼ同数となった。今年度の研究とおおいに関わり、担任はそれぞれ自分のテーマを持ちながら研究を進めているところである。そのため、[B]という評価も多くなったのではないかと思う。「道徳の実践力・道徳性な

どが高められていると思うか」の設問では、昨年度に比べ「A」が4ポイント増えた。地域ふれあい道徳での授業実践をはじめ、生徒指導主任や児童会担当が中心となってあいさつ運動や無言清掃などに取り組んできた成果だと思われる。具体的記述の中には、「前年度の授業で使った資料やしおりなどを、どこかに残しておく次年度の担当者にとって、準備などの時間が短縮できる。」といった意見が出ている。

### 【改善策2】

- ① 職員室を整理整頓し、職員室の西側の学年ボックスに、資料やしおりを保存しておけるような場所を確保していく。

(4) 「学年経営・生徒指導」について、どの項目もA評価の割合が高い。全職員がチーム大明で、目配り気配り、言葉かけなどアンテナを高くして対応に当たるなど、職員間での共通理解のもと子どもの指導に当たられてきた効果は大きい。

月に一度開く情報交換会の意義が大きかったこと、スクールカウンセラーを効果的に使えたことなどが意見として上がった。また、情報交換会をさらに充実するため、担任がその児童についての指導方針や対応の報告、協力要請ができるような会にしていくことが大事であるという意見が出されている。

(5) 家庭・地域社会との連携の項目では、学校応援団の活用について、昨年度より「A」が4ポイント増えた。ボランティアの方が子どもや教師に対してとても温かく接してくれたことなどがあげられる。一昨年度から始まった取り組みであるが、初期の目標に沿った運営がなされていると思われる。保護者との連携に関しては、今年からPTA総会后にすべての学年で学年部会を開催したが、保護者と顔合わせという意味でよかったという意見や、1学期に学級懇談会を持って、保護者同士のつながりをつくる上でもよかったという意見など、昨年度の課題を解決するために取り組んだ仕組みが概ね効果的であったと評価できる。しかし、児童の安全確保については、4月から交通事故が3件発生したことなど、ハード面・ソフト面からの取り組みの必要性が出された。

### 【改善策3】

- ① 児童の安全確保については、ハード面の課題はPTAを中心とした要請活動、安全指導部による通学路の安全点検などを行っていくが、児童への安全指導として、「登下校のしかた」「安全な行動のとり方」などを地区集会の時間を確保して、話し合いの機会を作っていくことにする。

(6) 「その他」の、「子どもたちはあいさつができたか」「給食中のすごし方やマナーに問題はないか。」について、BがAを上回った。とくにあいさつについてはCが3ポイントあり、他の項目に比べると厳しい評価となっている。また、給食中のすごし方やマナーに問題があったとした教師は14人でこれも改善の余地があると思える評価となっている。

### 【改善策4】

- \* 給食指導については、本年度も引き続き取り組んでいく。昨年度の子どものアンケート結果から、子どもが考える「食事の楽しさ」と「食事のマナー」には少しずれがあるのだろうと思われる。今後も給食時のマナー（箸の使い方・食器の置き方や持ち方・大声で話したりするなど）については、担任とTT・栄養士で連携しながら指導していく。
- \* あいさつ運動については、児童会を中心に行っているが、PTAも巻き込みながら、学校全体の取り組みとしていく。

## 2 児童アンケート

<考察>

### (1) 学校が楽しいと思っている児童がほとんど。でも楽しくないと感じている児童を把握し、その気持ちに寄り添うことが大事。

「学校が楽しいか」と「そのわけを教えてください」の設問結果は、昨年度とほとんど差がない。学年によっては「いつも楽しい」と「だいたい楽しい」が逆転している場合があるが、トータルで見ると楽しいと感じている子が90%以上になる。子どもたちにとって「学校が楽しい」ものになるかどうかは、友だち関係が大きな要因であることが分かる。一方、「楽しくないことが多い」は全校児童全体の5パーセントで少数だが、「いじわるをされる」「いやなことを言う」などの理由があがっている。各担任は、Q-Uで明らかになっている個人データとも照らし合わせながら、聞き取りをする・注意深く見守る・声かけをするなどの努力が必要である。

### (2) 無記名だが児童が特定できる形で実施しているアンケートである。「学校へ行きたくないと思うときがありますか」の項目は、児童の心のシグナルを見つけるために利用する。

この項目についても理由を記述してもらっている。「学校に行きたくない」回答した子には、すぐに個別の聞き取りを行うなどの対応を行うことを心がける。「学校に行きたくない」理由の中に「眠たい」「疲れている」などがみられる。これらの理由の原因として、家庭での生活習慣によるものもあると予想される。「早寝早起き朝ごはん」を心がけ、子どもたちが元気に登校できるように、家庭の協力が必要である。また、「疲れている」などの理由を書いている場合、実際には学習面や友達関係の悩みが潜んでいることも考えられる。子どもたちの様子をよく観察し、本当の悩みは何かをしっかりと把握する必要がある。

### (3) 関わり合いながらいきいきと学ぶ子どもに

学校の勉強については約半数の子どもが「よくわかる」と回答している。「よく分かる」「だいたい分かる」が全体で93%となっている。子どもの学習の理解の実態がこの回答どおりの結果だとうれしいのだが、子どもは「分かる」と思っている場合でも、実態は必ずしも十分に理解できているとはいえない場合やその逆もありえる。子どもの感覚と学習の定着度の実態にはずれがあることも多いので注意が必要である。特に5、6年生は、40人近い多人数学級であるので、きめ細か加配や市単講師の活用、学校支援ボランティアの活用など多人数のデメリットを解消できるよう工夫していきたい。

今年度も全校的な取り組みとして、百マス計算や漢字学習などの基礎的な学習内容の定着に力を入れている。また、読書活動を通して心を耕す取り組みも実施してきた。家庭の協力も得ながら進めてきたこの取り組みを通して、子どもたち基本的な計算力が育ってきていると実感しているところである。本年度は、この基礎の上に、表現やコミュニケーションなどを通して仲間と関わりながら学ぶことのできる児童の育成を目指している。学級づくりを基盤に「学校はまちがえるところだ」と、みんなが間違いを恐れず、そこからいきいきと学んでいく姿勢を大事に出来る（学習意欲を高める）学級づくりが大事になる。

### (4) 一人一人の子どもを大切に・・・

私たち教師は、このようなアンケートを始め、あらゆる機会に、子どもの声に謙虚に耳を傾けていかねばならない。「いじめによる自殺」が大きな社会問題となった本年である。児童アンケートの結果から自分の学級や学校の子どもの様子や状況をしっかりと把握し、「〇〇くん、きょうはどうか」「◇◇さん、がんばっているね」と、全職員がチーム大明として全校の子どもたちに目を配り、一人一人の子どもを大切にしていきたい。

### 3 保護者アンケート

#### <全般考察>

ほとんどの項目でA・Bをあわせた肯定的評価の割合が高かった。概ね大明小学校の教育が保護者に理解され、評価されているとあってよいと考える。学校や担任に対する感謝の言葉を聞くと、恐縮すると同時にもっと頑張らねばと思う。ただ、年々、A評価よりもB評価の割合が多くなってきたり、CやDの回答も見られたりする。これは学校評価についての理解が保護者の間に浸透してきて、よりシビアな見方が増えてきたのではないかと推察されるので、その意図をしっかりと把握し改善に繋げていきたい。

児童の家庭や地域での様子についての設問9～14では、大分C評価が増加している。家庭と連携しながら進めていくことの重要性を再認識した格好となった。保護者自身も毎日のことでありはつきりと結果が見える内容なので、厳しい回答となったのではないかと思われる。

#### <学校教育・学校経営・学校運営について（設問1～8）>

##### 考察1

今年度の設問5「学校は、子どもの様子について連絡したことに、適切に対応してくれる。」と設問6「学校は、子どもの悩みや心配事に気づき、積極的に相談に応じている。」の文面を→「学校は、子どもについての悩みや心配事を相談しやすい。」「学校は、子どもについての悩みや心配事に適切に対応してくれる。」に変更した。その結果を見ると、両設問ともC評価の割合が若干多いので「相談しやすい」と「適切に対応する」という面でこれから考えていかななくてはならないだろう。

家庭訪問、個別懇談会、授業参観、学年・学級懇談会、PTA役員会、PTA総会など保護者と、意思疎通を図る場面は設定されてはいるが、保護者にとっては、個人的にもっと気軽に担任や学校とコミュニケーションを多く取ることを望んでいることがうかがえる。

##### 今後の改善策

教師や学校は子どもの状況を丁寧に見つめて親への対応を親和的に努める。また学級の特色を尊重しつつ学級間の格差が出過ぎないように学年運営に努める。学校・学年・学級の様子などの情報提供に努めると同時に、家庭での子どもたちの生活の様子についての把握に努める。折に触れ、保護者からも積極的に担任や学校に相談してもらうよう告げる。

教職員と保護者は、ともに子どもの成長を支えるパートナーであるという意識を忘れないで、お互いに何でも言い合える関係を構築する。

##### 考察2

「地域ふれあい道徳授業公開」「地域文化を取り入れた大明小ばやし」「各学年による文化発表会（甲西地区では本校だけです）」「縦割り班活動を中心とした児童会活動（運動会・あいさつ運動・縦割り遊び・ハーモニーコンサート・図書委員による読み聞かせや秋の読書月間、保健委員会の発表や虫歯予防の標語・・・）」「体験活動重視の教育内容」（田んぼ・農園・市文化財課の講師・企業の派遣・・・）「学校支援ボランティア（安全通学・学習支援・読み聞かせ・・・）」など他の学校にない本校独自の教育活動をいくつか展開している。PTA活動も盛んである。90%以上の保護者がそのことを認めてくれているが、ある保護者の記述を見ると、更なる特色を望んでいる。

##### 今後の改善策

学校の特色については、特色を出すことが目的ではなく、あくまで「学校教育目標の実現」に向けて様々な創意・工夫を凝らした実践の向こうに、特色がにじみ出て来るという考え方もある。本校の教育課程の特色は、様々な行事や内容で展開されている。H23年度から始まった新教育課程は、教科書などが厚くなった通り内容がかなり増えている。これ以上行事などを増やすことは困難である。既存の行事や普段の授業を創意工夫により高めていきたい。

### 考察3

不審者対策として下校時などのPTAや職員によるパトロールを希望されている方もありますが、現状としては、地域の方々による「安全パトロール」と市による青パトを実施してもらっております。もし、PTAの皆様の自主的なご協力がいただけるならお願いしたいと思います。

### <子どもの様子について（設問9～14）>

#### 考察4

子どもの様子についてのアンケート結果も、ほとんどの項目でA・Bをあわせた肯定的評価の割合が高かった。その内、設問10、11、14は、昨年度よりもA評価が増えている。また、逆にC評価も増えている。昨年までなかったD評価も増えた。ほんの少しではあるが二極化現象の現われと思われる。「早寝・早起き・朝ごはん」「あいさつ」などの基本的な生活習慣は、家庭との連携が不可欠であり、家庭により実態に差が現れた結果と思われる。

#### 今後の改善策

学年PTA保健目標での取り組みを、各家庭に浸透させる取り組みの工夫、年に2回行なわれている学校保健委員会への出席状況を改善していく取り組みなど、今後とも家庭と連携しながら、また親だけでなく、子ども自身が意識化できるようさまざまな機会を捉えて指導を続けていく。

あいさつについても家庭の協力を得るとともに、通学班によるあいさつ運動などの工夫を行なってみる。（既に安全パトロールの皆さんにはあいさつ運動への協力をお願いしていますので、朝の登校時に自主的に登校班に付いて来て頂いている保護者の方にもお願いしながら取り組む。）

#### 考察5

交通安全教育については、1・3年生対象の「交通安全教室」を毎年開催したり、学級指導の時間でも日常的に指導したりしている。PTAでも通学路の安全点検などを行っている。ハード面・ソフト面の両面で取り組んでいるが、今年度一学期始めに、3件（内2件が自転車）の交通事故が発生してしまった。このような状況を踏まえ、今回の学校評価のアンケートでも、特に自転車の乗り方に心配をしている方があります。昨今の交通事情を考えると、ヘルメットについて再考することが必要と思われる。

#### 今後の改善策

PTA執行部や役員会などを通じ、会員の意見を聞きながら、交通安全への意識の高揚をねらうとともに、自転車運転時のヘルメットの着用の件も含め、今後話し合っていく。（7/20PTA安全指導部会においても、交通安全の看板作りなどの意見が出されていますので・・・。）

また、地区集会を年度始めの一回だけでなく、学期ごと実施していくこととする。

#### 考察6

地域行事については、育成会など地区の方々がいるいろいろな活躍されていると思います。この夏の恒例のラジオ体操祭も8/15に盛大に行なわれましたし、若宮さんの祭典も地域と子ども達とが一体となり素晴らしい行事となっています。PTA安全指導部でも当日パトロールを行なっています。また、冬場には、古市場地区の親子で「落ち葉」を掃いたりしてボランティア活動を行なっています。（その落ち葉を学校の農園に撒いていただきました。）

### <その他>

#### 考察7

アンケートだけでは、保護者の意図するところがよく伝わってこない面があるので、アンケート自体の工夫・見直しが必要と思われる。

#### 今後の改善策

アンケートを取る際、CやD評価を付けた場合には、その理由や改善策への考えも記述してもらい改善につなげていきたい。